

無料学習会への取り組みについて

近年教育の格差がさげばれています。つまり富の格差が教育の格差となっており、いわゆる教育における負のスパイラルが大きな社会問題の一つとされています。また、最近では少しずつ是正されつつありますが、ゆとり教育の弊害としていわれる勉強の「できる子」と「勉強のできない子」の二極化が生じているとも言われております。

このような教育をとりまく環境の改善もまた広く教育の分野で取り組み子供達の成長を見守っていく必要があるのではないのでしょうか。

茨城県行方市では、今年の5月から子供たちの学力向上を目指す無料学習会「行方ふれあいスタディ」を開催しており多くの利用者から喜ばれています。

その内容としては、毎週土曜日の午前10時から正午まで市内の公民館を利用して小学4年生から小学6年生及び中学生の希望者を対象に行っています。小中高の元教員の方が講師として行っています。

学校の宿題やドリルなどの学習教材を活用して自主学習する形式で進めています。

そのなかで、教育委員会で募集されたボランティアの方が分からない問題等の質問に丁寧に答えて行きます。

その中から子供たちは学習の意欲も高まり勉強に対する積極性も生まれてきます。

私は羽生市においてもこのような学習環境を整備する無料学習会の設置を考える時にあると考えます。

そこで無料学習会の設置について見解を伺います。